全海運所属組合の横顔
連載　第８回
九州地方海運組合連合会
その２　博多地区海運組合

【組合の概要】

事　務　局　　〒812-0032
福岡県福岡市博多区石城町 12-5
ウィンクス石城町 101 号室
電話 092-271-0678　FAX 092-262-0588
JR『博多』駅より西鉄バス
博多臨港警察署北口停下車 徒歩２分

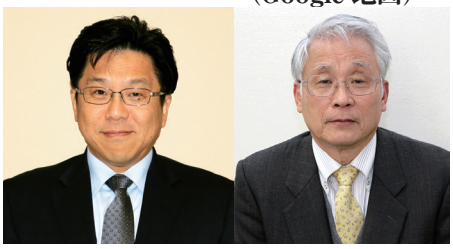
理　事　長　　阿利　欽章　丸阿産業㈱代表取締役社長

事務局長　　児玉　尚

組合員数　　運送事業者（兼業含む）　６社
貸渡事業者　　５社
利用運送事業者（専業）　13 社
合　　計　　24 社

所属船腹量　　20 隻　23,888 総ﾄﾝ　41,754 重量ﾄﾝ

事務局のある福岡市博多区石城町付近（Google 地図）



阿利理事長（左）と児玉事務局長

【組合の組織】

組合の役員は理事長１名、副理事長１名、理事９名、監事２名、相談役１名の計 14 名で構成される。年１回の総会の他、年１回程度の理事会が開催されている。

古代から開かれた港湾都市

【博多地区の海運】

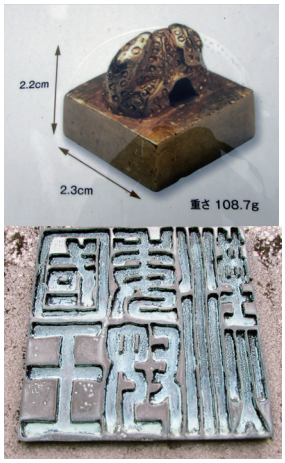
九州の海の玄関口博多港は、古くからの商業都市福岡市や糸島郡、宗像郡、粕屋郡の後背地を控え、石炭産業の活況時には石炭積み取り船で賑わったが、本来は消費都市型でもあり、海上貨物に恵まれず石炭、コークス、木材など昭和 40 年（1965）頃まで活況だった荷物が漸減するとともに低迷状況に陥った。一方、この頃から砂利船の需要が増加し、砂利輸送が活発となった。

博多港は、太古の昔から大陸への玄関口として、重要な役割を果たして来た。古代準構造船の部材が博多湾内の今津地区、博多湾に近い糸島半島から発見されており、

事務局が入居するビル（左）と事務局

縄文人が新しい文化を求めてアジアの海へと進出していることがわかる。弥生時代に中国大陸との交流が本格化するにつれて、福岡地方に水田稲作や金属器などの技術が伝わり、現在の福岡空港近くにある板付遺跡は、日本で最初にアジアから水田稲作技術が導入されたと推定されている。天明4年（1784）、志賀島で日本の歴史学上重大な国宝「金印（きんいん）」が発見されている。この金印は現在、福岡市博物館（福岡市早良区百道浜）に展示されており、福岡市と海の中道道路でつながる志賀島には、金印発見の跡地が金印公園となって保存されている。

博多港（撮影協力：博多ポートタワー）



志賀島の金印模型

江戸時代、徳川幕府の鎖国政策により海外への門戸は閉ざされ、博多港は対外貿易港としては長い眠りの時代に入った。明治時代になると博多港は地理的な条件を認められ、明治16年（1883）に一般開港外の特別貿易港に指定され、明治22年（1889）には特別輸出港と認められ、昭和2年（1927）に第2種重要港湾に指定さた。以降、港湾修築計画が具体化し、第2次世界大戦後は昭和20年（1945）、博多港が海外引き揚げ援護港に指定された。

その後の博多港は、戦後復興の時代を経て、昭和26年（1951）に重要港湾に指定され、昭和30年代からの高度成長の波に乗り、昭和48年（1973）には博多港開港以来の大事業といわれた筥崎・香椎地区の埋立工事が進められ、筥崎埠頭が竣工。昭和49年（1974）には博多埠頭、昭和51年（1976）には東浜埠頭、香椎地区が竣工した。また、九州経済の福岡一極集中と相俟って、西日本一の大型港湾となり、現在も博多港の国際貿易の中枢的な埠頭として大きな役割を果たしている。平成2年（1990）には特定重要港湾に指定され、平成6年（1994）には香椎ポートパーク外貿コンテナターミナルが供用開始され、平成7年（1995）には中軸国際港湾の指定を受け、平成12年（2000）にはアイランドシティが一部竣工し、平成26年（2014）には91万TEUを超える国際海上コンテナを取扱い、364日・24時間入出港及び荷役が可能であることから、北米・欧州航路のコンテナ船などが寄港している。また、福岡空港や都市高速道路が近くにあるため、利便性が高い他、海岸沿いには国際センター、福岡国際会議場、マリンメッセ福岡などのコンベンション施設があり、ヤフオクドームや福岡タワーなどの観光施設の新都心も博多湾の沿岸に集中している。

また、外国航路は平成28年（2016）にクルーズ客船寄港が328回を数えてクルーズ客船寄港数2年連続全国一となり、乗降人数も過去最高の212万人と利用客は増加し続けている。開港以来概ね120年を経過し、博多港は「海に開かれたアジアの拠点都市・福岡」のゲートウェイとして、益々重要な役割を果たしつつある。

所属船18隻中10隻がPB

【組合の沿革】

組合活動は古く、第2次世界大戦前から60余名の組合員を擁する博多機帆船海運組合

があり、順調に発展して来た。昭和 33 年（1958）9 月、小型船海運組合法に基づき同組合を母体に博多地区海運組合を設立した。また、協業化のために西日本内航海運協業組合が昭和 44 年（1969）10 月に設立され、組合員 8 名が参画したが、その役割を終えて平成 15 年(2003)9 月に解散した。問題点等の多かった砂利船の営業船と自家用船との一本化が実現する趨勢となった中、平成 2 年（1990）7 月には砂利船の輸送秩序の確立と違反船対策推進などから新たに砂利船部会を設置した。現在、所属船 20 隻のうち 10 隻をプッシャー・バージが占めている。

博多港護岸遊歩道にある博多港発祥の地の碑

なお、昭和 61 年（1986）7 月に対馬地区海運組合を吸収合併して博多地区海運組合を継承し、現在に至っている。

博多湾の海の守護神

【文化と伝承】

博多湾周辺には古くから海の守護神が祀られ、地元海運業関係者の信仰が厚い。

香椎宮（かしい）は、神亀元年（724）の創建とされ、皇室との関係が深くご祭神は 14 代仲哀天皇、神功皇后、住吉の 3 神。仲哀天皇の皇后神功皇后は天皇の死後、その遺志を継ぎ身重の体で博多港から新羅に出兵、無事帰還して天皇の廟を建てたのが始まりとされている。

香椎宮

箱崎宮（はこざき）は、日本 3 大八幡宮のひとつで、八幡神の託宣により延喜 21 年(921)に創建された。箱崎の地は海に臨み大陸に近く、古くから文化の開けた地で、海外貿易への門戸、護国の要衝でもあったので、筑豊の内陸部にあった宮から遷座されたとされている。蒙古襲来に際しては、ここが前線基地となり、文永の役（1274）の翌年、亀山上皇は「敵国降伏」のご宸翰（しんかん）（天王直筆の文書）を下賜された。また、豊臣秀吉の朝鮮出兵に際しては、ここが兵站基地となった。

箱崎宮

取材こぼれ話

福岡空港から博多駅に向かうの地下鉄で、写真のような楕円形状の金属パイプにぶら下がった吊り革にお目にかかった。こんな吊り革は初めてみたが、まだ、新しい車両のようで、満員の際には多くの人がつかまりやすいのではないだろうか。なかなかユニークな発想で、誰が考えたのだろうかと思わずみとれてしまった。朝夕満員電車に身をおく者としては、首都圏でも是非採用して欲しいものだ。（中島）